



グルモール

第2号

JAPANESE SCHOOL NEW DELHI 2026

令和8年5月29日(金)

児童生徒会の学校スローガン決定



校長 尾後貫 智

令和8年度が始まり、2ヶ月が経過しました。子どもたちの学校生活の歯車も少しずつ回転が速くなってきました。今週の児童生徒朝会では、児童生徒会の皆さんが、今年の学校スローガンを発表してくれました。「和」一文字。エントランスに掲示してあります。これを受けて、各委員会で目標を決めました。

もうお気づきのことと思いますが、小学部、中学部共、各委員会の目標にすべて「和」の文字が入っています。

日本という国は歴史的に見ても、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」と言う言葉が有名ですが、「和」は単なる仲良しではないと私は思います。社会や集団をよりよく保つために、一人一人が自分勝手を抑え、互いを尊重しながら協力する姿勢のことです。

この日本の「和」には大きな強みがあります。例えば、災害時に秩序が保たれる、治安が比較的よい、協力して仕事を進められる、相手への配慮が強いなどです。これは海外で日本人が評価される理由の一つでもあります。

< 中学部 >

生徒会 和衷協同 ～繋がる心 広がる思い～
保健体育委員会 フレッシュな 大和魂 見せつけろ
放送委員会 つながる心 広がる和
図書委員会 本の世界で ほっと 和む
美化ボランティア委員会 和の誇りを忘れずにホコリを
ぶっとばせ！～みんなホッコリ～

< 小学部 >

児童会 和になって あいさつ輝く学校
体育委員会 和やかにつなぐ 体育の輪
放送委員会 世界一明るい声で 放送の和を 広げよう
図書委員会 和の心で本と人を結ぼう
保健委員会 平和で元気な学校生活

しかし「和」には弱点もあります。「和」が強すぎると、空気を読まなければならない、本音を言えない、同調圧力が強まる、異質なものを排除しやすいという問題が起こります。つまり、「和」は社会を安定させる力にもなりますが、時には人を苦しめる力にもなるということです。だからこそ、「和を大切にすると同時に、「本当に大切なことのために、自分の意見が言える」といった2つの力を育てていくことが、これから生きる子どもたちには必要なのだと思います。子どもたちには是非、和を大切にしながら、それぞれの意見を出し合って合意形成を図っていく経験を積んでいき、互いを尊重しながら協力していけるような人になってほしいと願います。

さあ、明日から夏休み。今日の夏休み前集会で、私は時間とお金について子どもたちへ話をしました。お金は使わなくて蓄えておくことができるけど、時間は蓄えておくことができません。待ったなしです。何となく1日を過ごすことがないよう、どのように大事な時間を過ごすかご家族でよく話し合い、有意義な夏休みをお過ごしください。

子どもの成長に合わせて

子育てには不思議なところがあります。赤ちゃんの頃は、親がすべてをしてあげなければ生きていきません。食事を与え、着替えを手伝い、危険から守り、常にそばで見守ります。親が手を差し伸べることそのものが愛情でした。

しかし、子どもは成長します。歩けるようになり、自分で考え、自分で選び、自分で行動するようになります。そして小学校、中学校へと進むにつれて、親の役割も少しずつ変わっていかねばなりません。

ところが、子どもは成長しているのに、親の関わり方だけが子どもが幼い頃のまま変わらないことがあります。

転ばないように先回りしてしまう。

失敗しないように代わりに解決してしまう。

嫌な思いをしないように障害物を取り除いてしまう。

もちろん、それは子どもを大切に思う気持ちからです。しかし、子どもが大きくなればなるほど、その優しさが逆に成長の機会を奪ってしまうことがあります。

自転車の練習を思い浮かべてください。

最初は親が後ろを支えます。しかし、いつまでも支え続けていては、子どもは自分でバランスを取れるようになりません。どこかで手を離さなければならないタイミングがあります。転ぶこともあります。痛い思いをすることもあります。それでも、その経験を通して子どもは本当の力を身につけていきます。

人生も同じです。

友達とのトラブル、人間関係の悩み、勉強の失敗、思い通りにならない経験。子どもたちはそうした出来事を乗り越えながら、自分で考える力、問題を解決する力、困難に立ち向かう力を育てていきます。

もし親がそのすべてを解決してしまえば、一時的には子どもは楽になるかもしれませんが、将来、自分の力で乗り越えなければならない壁に出会ったとき、苦勞するのは子ども自身です。

教育の目的は、「失敗させないこと」ではありません。子どもたちを失敗しても立ち上がれる人に育てることだと私は思います。困難があってもそれをたくましく乗り越え、前を向ける人を育てることです。

そのためには、子どもの成長だけでなく、親の関わり方も成長していく必要があります。

幼い頃は手を貸す。

少し大きくなったら見守る。

さらに成長したら信じて任せる。

これは決して放任ではありません。必要なときには支え、困ったときには相談に乗りながらも、「あなたならできる」と我が子を信じて待つ姿勢です。子どもが成長するにつれて、親は「支える人」から「見守る人」へ、そして「信じて応援する人」へと役割を変えていきます。子育てとは、子どもを成長させる営みであると同時に、親自身も成長していく営みなのかもしれません。

子どもが少しずつ親の手を離れていくことは寂しいことではありません。それは、親子で積み重ねてきた成長の証です。子どもが自分の足で歩き始めるその日を信じて、私たち大人もまた、子どもの成長に合わせて関わり方を変えていきたいものです。



5月のトピック



児童生徒会役員および委員長任命式

4日、18日に今年度前期の児童生徒会役員と各委員会の委員長の任命式がありました。今年度児童生徒会のスローガンは「和」。日本をあらわす漢字でもありますが、「なごむ」「やわらぐ」などの意味も持つ漢字で児童生徒会がおだやかにみんなで調和して活動を進めていこうという思いが現れています。会長をはじめそれぞれの役員、委員長が活動方針と抱負を伝えました。



役員、委員長の任命書を授与



テロ（不審者）避難訓練・バス避難訓練

先月末には地震の際の避難訓練を行いました。今月はテロや不審者侵入が起こった場合の訓練と登下校時のスクールバスでの避難訓練を行いました。今年も大使館の警備対策官の方々が、講話と実演をみせてくださいました。バス避難訓練では、バス委員の保護者の方が、乗降時やバス内待機での注意点などをクイズ形式にしてわかりやすくお話していただき、その後自分たちのバスで乗降訓練を行いました。



大使館警備対策官の方による安全教室

中学部 ～キャリア学習～

キャリア学習の一環としてインドで活躍する日本人の方をゲストティーチャーにお招きして講話をいただき取り組みをしています。

20日(水)はアシックス・インドの代表の方からやりがい、心がけ、インドでの学びなどについてのお話を聞きました。



アシックスが最初に作ったのはバスケットシューズだったそうです。



児童会で取り組む「あいさつ番長運動」



～ 個人懇談・授業参観デー ～

4日の週は個人懇談、19日は参観デーを設定しました。平日にも関わらず多くの保護者の皆さんが参観にお越しくださいました。懇談、参観ともご参加ありがとうございました。



< 児童生徒数 >

※5月29日現在

スーリヤ生数は交流学級に計上しています。

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	スーリヤ	計
男子	10	9	17	14	21	18	10	5	14	(6)	118
女子	7	27	21	16	15	16	20	11	12	(2)	145
計	17	36	38	30	36	34	30	16	26	(8)	263